報道機関各位

海老名市
住みたい 住み続けたいまち

News Release

（別紙）

名称	嶋﨑家住宅主屋
建築年代	明治時代後期（大正 15 年、昭和 50 年、57 年改修）
構造など	南東の門から、物置と蚕室（現存しない）の間を抜け、正面に位置する。 木造平屋、入母屋造銅板葺。幕末から明治期にかけて神奈川県央部の大型民家に多く見られる喰違六間取形式で、土間妻側に下屋をおろす。全般的に良質な材が用いられ、正面縁側のガラス戸には、腰の部分に細かい市松模様が施される。近代の上質な民家建築で、大工は海老名村役場を建築した藤井熊太郎とみられる。

▲外観

▲内観

名称	嶋﨑家住宅離れ
建築年代	昭和３年
構造など	主屋と同じく入母屋銅板葺で、八畳２室の続き座敷に水屋、便所を備える。 各室には長押をまわしていて数寄屋風の造りではないが、材料は吟味され各部に意を凝らしている。主室廻りの柱は目の詰んだ糸柾の四方柾で、天井には、畳大の一枚板８枚を組み合わせ、それぞれを天井縁によって区分している。小規模ながら選び抜かれた木材を使用し、欄間や天井、襖紙など凝った意匠の建築。 大工は同じ村の吉野時松である。

▲外観

▲内観